

<支部の連絡窓口>
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表) 川村 巖
〒294-0032 館山市1357
Tel.0470-22-0230

記録的豪雨による九州北部の激甚災害で犠牲になられた方々のご冥福を衷心からお祈り申し上げ
被災された多くの方々に心よりのお見舞いと一日も早い復興を祈念申し上げます。<支部会員一同>

支部の活動概要

<<6・7月の活動実績>>

- 6.30(金) 現地研修支援(金沢シティG、三芳地区)
- 7.17(月) NPO「河川浄化運動」協力(海の日、市内)
- 7.19(水) 千葉県隊友会前期理事・支部長会議(千葉市)
- 7.29(土) 支部7月役員会(コミセン)

<<8・9月の活動予定>>

- 9.13(水) 市民講座(「歴史認識関連」、コミセン)
- 9.23(土) 館山航空基地開隊64周年記念・前夜祭
- 9.24(日) 同記念式典ほか
- 9.30(土) 支部9月役員会(コミセン)

動き始めた「隊員の家族支援」施策

7.19 県隊友会理事・支部長会議から

「隊友」6月号第一面に掲載のとおり、今年度から自衛隊家族会(元父兄会)及び隊友会による「自衛隊の隊員家族に対する支援活動」が始められ、当面、陸上自衛隊の隊員家族を対象に、陸自と自衛隊家族会及び隊友会の間で中央協定が締結され、試行の段階から施行に入っております。

「家族支援」とは、大規模災害発生時等に派遣隊員の留守家族に対する支援協力を指し、具体的には家族の安否確認、生活支援等が挙げられますが、現段階では「安否確認」が重点的に取り上げられ、今後、実働を通じて段階的に支援対象の拡大も予定されているとのことです。

海・空自隊員の家族支援は？ (現時点で海空自隊員の家族も含まれている)

陸海空自の派遣態様等の違いもあり、海空自衛隊については今年度、部隊側が「家族支援を必要とする事案・事態の洗い出し・ニーズの見極め」を行い、この検討結果を踏まえて、隊友会・支部が自衛隊家族会との関係において「何を、どういう形・方法で、どこまで支援するのか・できるのか」について、今後、(家族会・隊友会として)検討する段取りのようです。

現時点で未知数の点が多々あり暗中模索の感もありますが、この課題の要諦は、「協力支援とは、相手があつてのこと」であり、「相手の立場に立った協力支援」というところにあると考えます。 <支部長>

千葉県との「防災協定」締結に向けて

7.19 県隊友会理事・支部長会議から

千葉県庁(危機管理課)から打診されている「緊急時(自然災害等)における協力」について、千葉県隊友会として年度末を目処に「協定・覚書の締結」に向けて、県庁との交渉及び隊友会内での意見調整が進められているところです。

緊急時における協力内容は多種多様ですが、県隊友会としては「県防災備蓄倉庫(10箇所、安房地区は館山の亀ヶ原倉庫)の管理」を当面の主要課題として推進することになると思われます。

(支部長の個人的な)所見として、体力(会員の年齢構成等)に応じ、かつ地域社会貢献の面でも隊友会に相応しい事業(協力作業)と考えておりますが、館山支部としては「(中央における)調整・検討結果を待つ」という姿勢ではなく、管理に関する責任分担や協力内容・態様等について、地域の実状、実態を調べて取組む所存です。 <支部長>

レクイエム

6/21 末岡 輝公会員(海) 逝去(享年84歳)
ご逝去を悼み謹んでご冥福をお祈り致します <支部会員一同>

トピックス

OB出身議員の議長・副議長コンビが誕生！

周知のように6月議会の最終日に、館山市議会議長に榎本祐三会員(議員4期目)が再選され、副議長に太田 浩会員(議員2期目)が選出されております。全国自治体の中で(おそらく)異色のケースであり、就任を心から祝福するとともに、絶妙なコンビネーションにより市議会・各種委員会の正常な運営に手腕を発揮されるよう盛大なエールを送りましょう。 <川村 記>

練習艦「かしま」に英豪華客船が衝突！？

少し古い話ですが・・・



<<本文とは無関係です>>

あはや国際問題に！？

平成12年7月に海自の遠航部隊が米国を訪問したときのこと、ハドソン河沿いの岸壁に係留中の練習艦「かしま」に、入港してきた英国が誇る豪華客船「クイーンエリザベス2世号(7万トン)」が、接岸作業で河の急流のため同船の右舷前部を「かしま」の艦首付近にこすりつけてしまったという。

幸い「かしま」は艦首付近のポールが折れ曲り塗装が剥がれる程度の軽傷で済んだ。しかし客船側にとって相手が他国の「軍艦」であり、事と次第では国際問題にも波及しか

国際的な話題になった「かしま」艦長の粋(いき)な対応

接岸を終えるや2世号の機関長と先任航海士が船長からの謝罪のメッセージを携えて「かしま」を訪れた。こういう場合、船長と航海長は下船せずに船に留まるのが船乗りのしきたりと言われる。対応に出た「かしま」艦長いわく、「別段、気にしておりません。女王陛下のキスの歓迎を受け栄光の至りです！」と。実に見事、粋な対応だと思いませんか？

この逸話は折しも米国独立記念日の洋上式典参加のためニューヨーク港に集結中の世界各国の帆船や海軍艦艇の間にたちまち広まり、タイムズやイブニングスタンダードが報道して世界中に広まった。日本のネーバルオフィサーのユーモアのセンスが高く評価された一幕であった。ちなみに、日本ではこれを報じたメディアは無かったとか。

海軍士官の格言とされた「スマートで目先が利いて几帳面、負けじ魂これぞ船乗り」は、海上の勤務に限らず社会・日常生活面でも適用されるべきものなのでしょう。ユーモアは口先ではなく、格言の実践を通じて培われた知性・情から生まれるものだと思うのです。古今、瘦せた土壌には作物も育たないと言われます。

<かつて船乗りを志した会員(海)>

「リベラルな校風」洲ノ埼海軍航空隊」を探访する

航空兵器整備員養成部隊・洲ノ埼海軍航空隊(「洲ノ空」)

戦争半ばのS18年6月、航空兵器技術の高度化・複雑化に対応して有能な多数の兵器整備員を体系的に養成するための教育機関として「洲ノ空」が開隊した。(海軍の航空部門は「学校」とせず「航空隊」と呼んだ)

人材として多数の予備学生、予科練習生(予科練)が登用され、最盛期のS19年後半には2千名の予科練生が入隊し、館砲校に劣らぬ1万数千名の大所帯に膨れあがった。射爆、無線、光学、偵察写真課程等、専門術科教育に関することはさて



<<戦闘機射撃場(笠名区)での機銃試射>>



<<学生舎での食事風景>>

「リベラル」と過酷極まる訓練・労役の共存共栄・呉越同舟？

リベラルとは「学生・練習生たちの自由・個性を尊重する」ことを指したものと思われるが、偵察写真課程を例にとると、学生全員にカメラを買わせ、訓練場面の撮影も課外の現像室の使用も自由にさせたと言われる。左の射撃場の写真は、7期兵器整備予備学生の個人アルバムから拾ったもので、ほかにも学生の作品と思われる上空から撮った洲ノ空全景写真など現存する唯一無二の貴重な画像である。(この地域は規制の厳しい要塞地帯であった)毎週土曜に催される慰安映画会では、「空の要塞・B-17爆撃機」やダイアナダーウインの「オーケストラの少女(カラー)」などの洋モノが上映され、20年に入り空襲が始まって防空壕で映画会が続けられたと言われる。

一方で、S19年後半の洲ノ空の戦闘指揮所壕や巨大な防空壕の建設(3月号で紹介)が、教官・学生・練習生らの自隊力による昼夜交代の突貫作業で完成し、さらにS20年3月から始まった関東沿岸各地の「水上・水中特攻基地」の構築作業では、洲ノ空は勝浦、岩井、洲崎等の基地建設現場へ多くの「作業戦力」を派出した。ある特攻部隊(勝浦基地)の戦時記録には、「S20.5末、基地竣工、洲ノ空から引渡しを受ける」と記述されており、洲ノ空は並みの作業隊の

高の島の海軍戦没者慰霊碑

平成2年に洲ノ空・7期兵器整備学生(略称「7期ヨヘ」)の生存者が中心になって高の島弁財天(敵島神社)境内に「海軍兵器整備予備学生戦没者慰霊碑」が建立され、安房神社境内(2箇所)及び佐野・館砲校跡の海軍戦没者慰霊碑に比べ、その存在を知る人は少ない。2年余の短い歴史であったが、(戦没者が急増した)S19年後半以降、数多くの課程修了者を戦地に送り出し、(総数は把握できないが)「7期ヨヘ」だけでも285名中20%近い戦没者を数えている。

高の島の慰霊碑ではセレモニーとしての慰霊祭は行わず、毎年、6月1日には会員が随意に館山を訪れ、散華した同期生たちの供養を続けてきたが、会員の高齢化により最近では訪れる人もめっきり少なくなった。

慰霊碑の建立当事者として、彼らが青春に情熱を燃やした洲ノ空を眺望し、水泳・カッター訓練に精を出した沖ノ島・高の島周辺海域を静かに見守る敵島神社(海の神社)の境内に、散華した仲間の「安らぎの場・安住の地」を求めたのかもしれない。

<自称地域史探索マニア その15>